

施策評価結果

(平成 27 年度実施施策)

平成 28 年 (2016 年) 12 月
茨木市

目 次

第1	施策評価の概要	
1	施策評価について	1
2	施策評価の目的	1
3	評価方法等	2
第2	平成27年度施策評価結果	
1	評価結果の総括	4
2	評価シートの見方	5
3	施策評価シート	7
	【将来像1】ともに支え合い、健やかに暮らせるまち	
	施策1-1 地域福祉を推進する	9
	施策1-2 高齢者への支援を推進する	13
	施策1-3 障害者への支援を推進する	17
	施策1-4 生活困窮者への支援を推進する	21
	施策1-5 健康づくりや地域医療を充実する	25
	施策1-6 社会保険制度を安定的に運営する	30
	【将来像2】次代の社会を担う子どもたちを育むまち	
	施策2-1 すべての子どもの育ちを支援する	36
	施策2-2 地域ぐるみの子育てを推進する	40
	施策2-3 「生きる力」を育む教育を推進する	44
	施策2-4 魅力ある教育環境づくりを推進する	49
	施策2-5 青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する	53
	【将来像3】みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち	
	施策3-1 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する	58
	施策3-2 みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する	63
	施策3-3 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する	67
	施策3-4 観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる	72
	施策3-5 都市間の交流と国際化をすすめる	76
	【将来像4】市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち	
	施策4-1 災害への備えを充実させる	81
	施策4-2 消防・救急体制の充実強化を図る	87
	施策4-3 防犯や多様な危機への対策強化を図る	91
	施策4-4 消費者教育を推進し、自立した消費者の育成に努める	95

【将来像 5】都市活力がみなぎる便利で快適なまち

施策 5-1	地域経済を支える産業をまもりそだてる	100
施策 5-2	時代の変化を見通した新しい産業をつくり、そだてる	105
施策 5-3	就労支援と働きやすい職場づくりをすすめる	109
施策 5-4	地域特性をいかした都市づくりを計画的にすすめる	113
施策 5-5	良好で住みよい環境・景観づくりをすすめる	117
施策 5-6	時代と市民の期待・要請に応え活力みなぎる都市づくりをすすめる	122
施策 5-7	環境負荷の低減や少子・高齢化社会を見据え持続可能な都市づくりをすすめる	127
施策 5-8	暮らしと産業を支える交通を充実させる	132
施策 5-9	市民・民間によるまちづくりを促進する	137

【将来像 6】心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち

施策 6-1	いごこちの良い生活環境をたもつ	142
施策 6-2	バランスのとれた自然環境をつくる	146
施策 6-3	ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす	150
施策 6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる	154

【将来像 7】まちづくりを進めるための基盤

施策 7-1	まちの魅力を市内外に発信する	159
施策 7-2	社会の変化に対応する効率的・効果的な自治体運営を推進する	163
施策 7-3	地域社会の発展に貢献できる職員を育成する	169
施策 7-4	人権尊重のまちづくりを推進するとともに平和の実現をめざす	173
施策 7-5	市民とともに男女共同参画社会の実現をめざす	177
施策 7-6	地域コミュニティを育み、地域自治を支援する	181
施策 7-7	多様な主体による協働のまちづくりを推進する	185

第1 施策評価の概要

1 施策評価について

「ほっといばらき もっと、ずっと」のスローガンのもと、平成27年度にスタートした「第5次茨木市総合計画」は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成されています。

総合計画では、基本構想に掲げるまちの将来像とまちづくりを支える基盤の実現に向け、前期基本計画には、40の施策とそれを構成する131の取組による施策別計画が定められており、施策ごとに評価を行うことで、施策と取組の進捗を管理するものとしています。

そこで、総合計画に掲げる施策の方向性に沿った進行状況の評価を行い、今後の施策の進め方を検討する「施策評価」を、平成27年度実施施策分から実施します。なお、評価にあたっては、毎年度実施する市内部における評価に加え、学識経験者による外部評価を隔年で実施します。

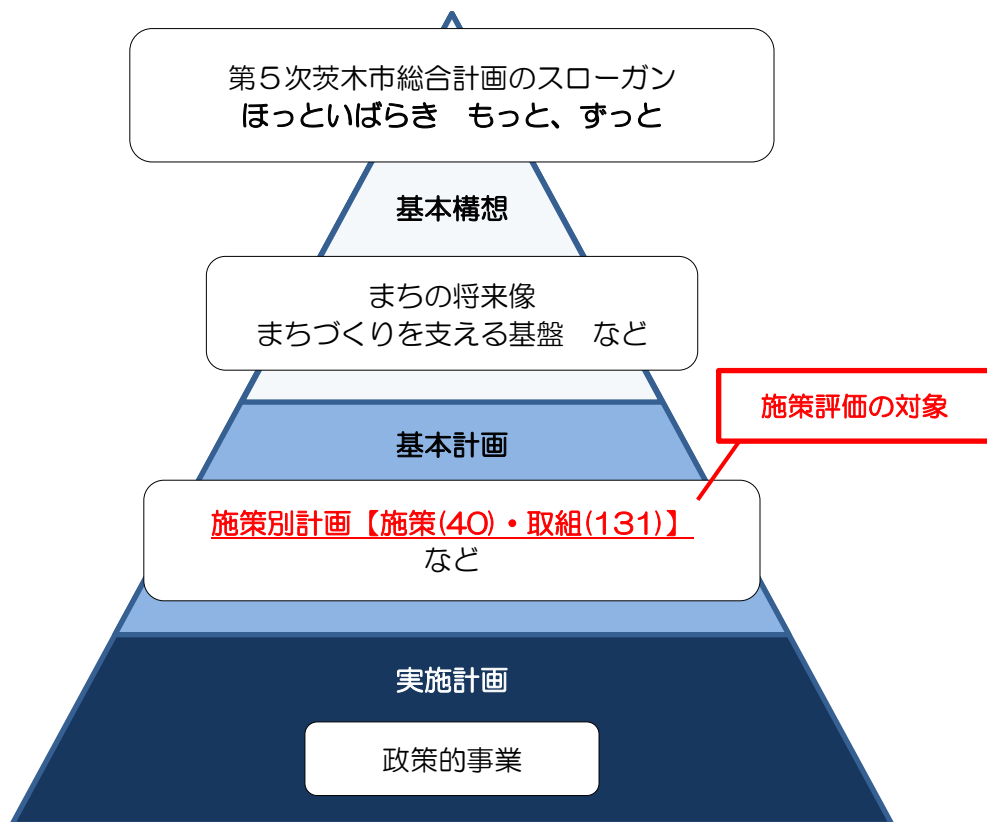


図1 第5次茨木市総合計画の体系

2 施策評価の目的

(1) 総合計画の進行管理

第5次茨木市総合計画に掲げるまちの将来像等の実現に向け、基本計画に定める施策及び取組の現状や課題を確認し、目標の進行状況を評価するとともに今後の方針を設定し、総合計画実施計画等につなげることにより、施策等の推進を図ります。

(2) 効率的で効果的な行財政運営の実現

複数の事務事業で構成される施策及び取組単位で評価を行い、施策等への貢献度、優先度等を踏まえ、幅広い視点から個々の事務事業のあり方を検討することにより、総合計画実施計画等における事務事業の選択と集中を実現するとともに、より効率的で効果的な行財政運営の実現を図ります。

(3) 市民との情報共有

施策等の進行状況を数値で示す指標等を活用し、施策等の現状と課題、今後の方針等を分かりやすく公表して市民と共有することにより、市の説明責任を果たすとともに市政への理解と協力を得る。また、評価プロセスに市民参画を得ることにより、市民のまちづくりへの参画を促進します。

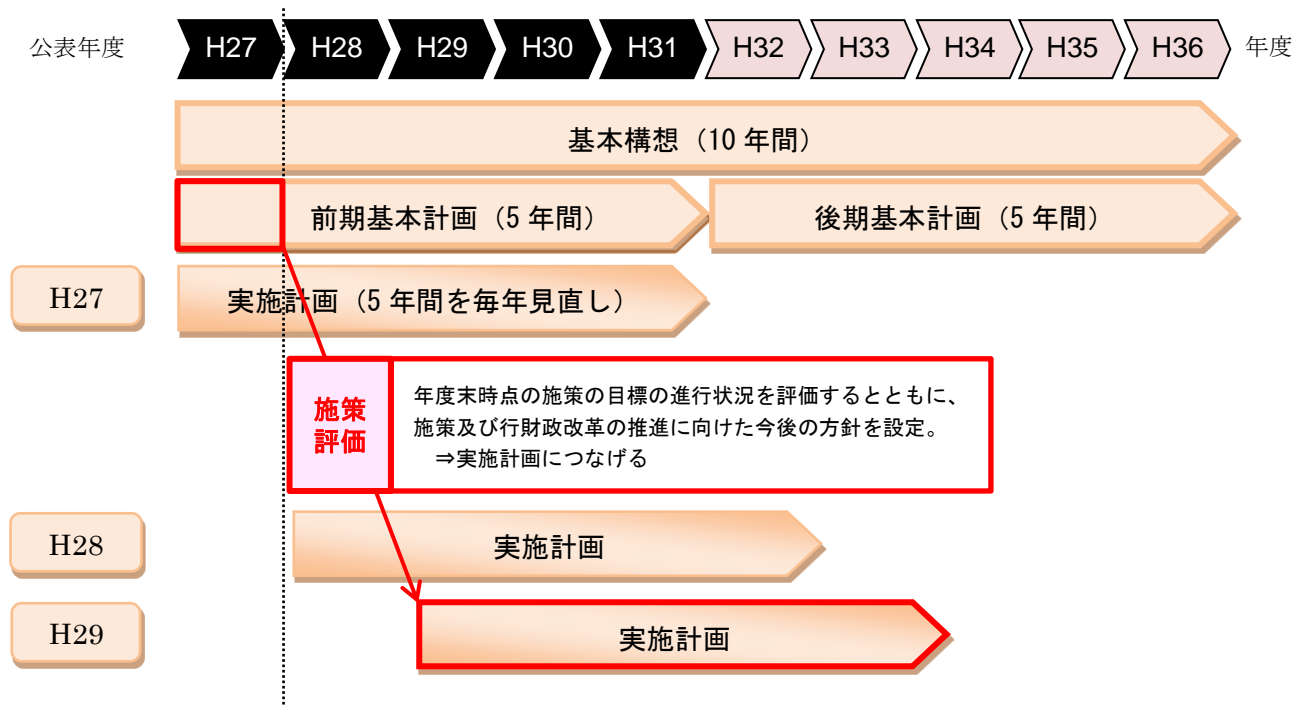


図2 施策評価による総合計画推進のイメージ

3 評価方法等

(1) 施策評価の対象

第5次茨木市総合計画前期基本計画に掲げる40施策（131取組）すべてを対象とし、毎年度末現在における現状と課題等について評価を行います。

(2) 評価方法

市内部において、各取組の主たる担当課により取組レベルの評価（取組評価）を行った後、それらを踏まえて、各施策の主たる担当課により施策レベルの評価（施策評価）を行い、市長ヒアリング等を経て、各施策の今後の方向性等を定めています。

取組評価においては、各取組の目的、意図を表現し、実績あとの推移等を確認することで成果を把握できる参考指標を可能な限り設定し、定量的で客観的な点検・評等となるよう努めています。

また、外部評価として、市の評価の妥当性等に対する学識経験者による外部評価を隔年で実施し、今後の市政運営の参考にするものとします。

(3) 施策評価結果の活用

施策評価により設定した「今後の進め方」に基づき、毎年度ローリングを行う総合計画実施計画において、事業の新規、拡充、見直し等の立案を行うことにより、今後5年間における施策及び行財政改革の推進を図ります。

また、実施計画を踏まえた予算編成、事業実施を行い、施策評価においてその成果等を評価することにより、本市の行財政運営におけるPDCAマネジメントサイクルを機能させていくものとします。

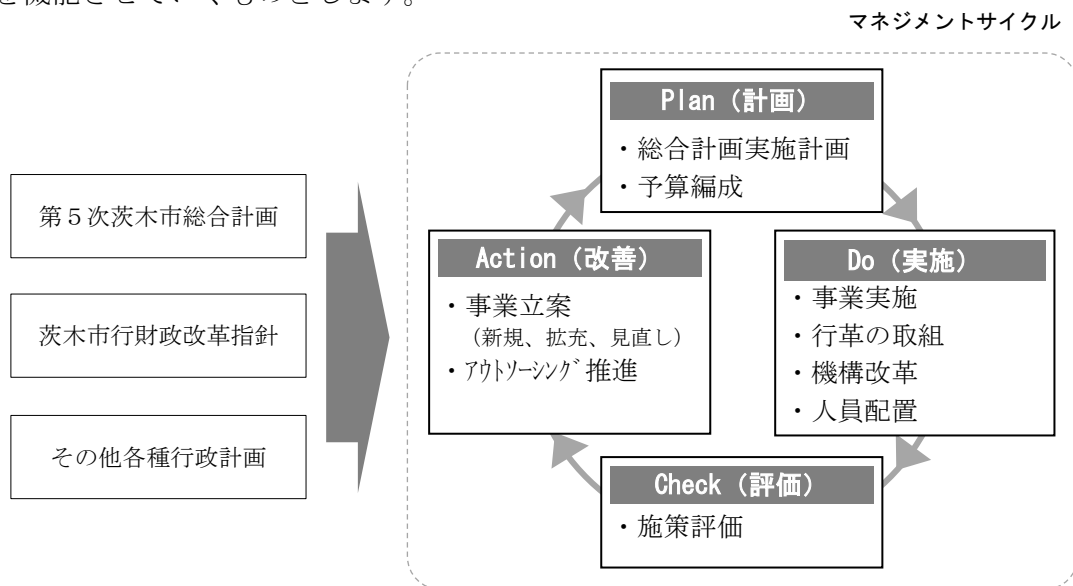


図3 行財政運営におけるPDCAマネジメントサイクルのイメージ

第2 平成27年度施策評価結果

1 評価結果の総括

前期基本計画の40の施策における、施策の総合評価は下表のとおりです。なお、総合評価のA～Dの意味は次のとおりです。

【施策の総合評価】

- A 施策の方向性に沿って順調に進行している。
- B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。
- C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。
- D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

まちの将来像等 (第5次総合計画)	施策の総合評価				施策数
	A	B	C	D	
1 ともに支え合い、健やかに暮らせるまち	1	5	0	0	6
2 次代の社会を担う子どもたちを育むまち	1	4	0	0	5
3 みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち	0	5	0	0	5
4 市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る 安全安心のまち	1	3	0	0	4
5 都市活力がみなぎる便利で快適なまち	0	9	0	0	9
6 心がけから行動へ みんなで創る環境にやさ しいまち	0	4	0	0	4
7 まちづくりを進めるための基盤	4	3	0	0	7
計	7	33	0	0	40

2 施策評価シートの見方

施策評価シートの構成と見方は次のとおりです。

平成27年度施策評価

施策評価シート			
1 施策の概要			
1	まちの将来像	1	ともに支え合い、健やかに暮らせるまち
2	施策	1-1	第5次茨木市総合計画前期実施計画の内容を記載しています。
3	施策の方向性 (前期基本計画より)		誰もが地域福祉の担い手となり相談支援体制を充実させることにより、住み慣れた地域で、誰もが誇りとしての尊厳を持って個性や能力をいかしながら、社会参加ができ、安心していつまでも暮らすことができるまちづくりを進めます。
4	担当課	主 (記 関	課長名 木 耕司 施策の推進を担う担当課を、主担当課と関連課に分けて記載しています。施策評価シートの作成担当者は施策主担当課長です。
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	1-1-1 1-1-2 1-1-3	1-1-1 市民との協働による地域福祉の推進 1-1-2 ★地域における相談支援体制の充実 1-1-3 施策を構成する単位である取組を列挙しています。取組の評価は3ページ以降に掲載されています。
2 H27年度末現在の施策の現状と課題			
1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
評価理由(施策の成果、現状に影響を与えた外的な要因、対応すべき今後の課題等)			
2	「社会を中核とした結果、高揚集社会福祉種団体等がす。今後もし手として塊の世代が地域での27年度にいたことなど気軽に相談障害者相ネットワークを成年後見に対する市虐待については、相談受理件数は増加しており、成果を上げているところですが、今後も、事業所等との連携を深め、また市民意識の高揚にも努め、さらに早期に発見や再発防止に向けた取り組みを進めていく必要があります。		<p>平成27年度末時点の施策の進行状況について、A～Dの4段階で総合評価を行い、評価理由を記載しています。総合評価の目安は次のとおりとし、これによらない場合には、その理由を、評価理由欄において文章で明らかにすることとしています。</p> <p>A：すべての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がaである。 B：①すべての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がbである。 ②一部の取組の評価がcであるが、5割以上はaまたはbである。 C：A・B・D以外 D：7割以上の取組の評価がdである</p>

【評価シートの見方（続き）】

1	まちの将来像	1	ともに支え合い、健やかに暮らせるまち
2	施策	1-1	地域福祉を推進する

3 H28年度の施策の進め方

	<p>社会福祉協議会とは、災害ボランティアセンターの設置運営訓練などにおいて連携し、さらにボランティアセンターの活動の活性化を推進します。また、ぶらっ</p> <p>総合保健福祉計画 働による計画策定を 地域コミュニティの きるよう、関連部課と また、ひとり暮らし高齢 に努めます。</p> <p>各種関連機関(障害者相談支援事業所・地域包括支援センター・CSWなど)からの虐待の通報受理、緊急介入、再発防止等の早期対応を図るとともに、障害者・高齢者虐待防止ネットワーク連絡会において、各参加機関が役割を果たせるような連携体制の構築、緊急一時保護事業の推進、また、地域で見守る体制整備のため、市民後見人の養成に取り組みます。</p>		<p>など、市民との協 談体制が確立で を導入します。 実施し、実態把握</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	------------------------------------------------------

施策の推進に向けて、平成 28 年度に取り組む（取り組んでいる）内容が記載されています。

4 今後の進め方

		H29年度以降の施策の方向性	
		<p>計画策定については、さらに市民参加を進め、ワークショップやアンケートで得られた成果を、計画に反映させるとともに、地域福祉を自らの課題とし、子どもや若者が交流できる機会を創出する。また、「福祉まるごと村」の体制の構築を目標とし、虐待などの権利擁護に関する見学研修や「市民後見人養成講座」の開催など、社会福祉協議会が唯一の社会福祉協議会として、本市の地域福祉活動の推進に積極的に取り組むことにより、各地域に根ざした活動を推進し、主体的な役割を担う団体となるよう、市との役割分担を明確化していきます。</p>	<p>地域住民同士が支えあえるよう努めます。また、地域主体での相談など、「市民後見人養成講座」など、市内で実施されている市内での活動に積極的に取り組むことにより、各地域に根ざした活動を推進し、主体的な役割を担う団体となるよう、市との役割分担を明確化していきます。</p>
		H29年度以降の行財政改革の推進	該当する主な行革指針の具体的項目
			1-1 多様な担い手との協働のまちづくりの推進
2	計画策定での市	<p>本市の持続的発展を支える行財政運営の実現に向け、「茨木市行財政改革指針【改訂版】」に沿って、当該施策で推進する行財政改革の方向性が記載されています。記載された具体的な取組内容については、総合計画実施計画等において検討を行い、予算編成につなげています。</p>	

本市の持続的発展を支える行財政運営の実現に向け、「茨木市行財政改革指針【改訂版】」に沿って、当該施策で推進する行財政改革の方向性が記載されています。記載された具体的な取組内容については、総合計画実施計画等において検討を行い、予算編成につなげています。

【評価シートの見方（続き）】

1	まちの将来像	1	ともに支え合い、健やかに暮らせるまち
2	施策	1-1	地域福祉を推進する

5 施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	<p>施策を構成する取組の評価結果とその理由が記載されています。取組の評価の目安は次のとおりです。</p> <p>【参考指標を設定している場合】 参考指標の推移と評価欄の関係性の目安は次のとおりとし、これによらない場合には、その理由を、評価理由欄において文章で明らかにすることとしています。</p> <p>a：すべての参考指標が目標値に向けて順調に推移している b：一部の参考指標の推移が目標水準を下回っているが、目標値の達成は可能である c：一部の参考指標の推移が目標水準を下回っており、目標値の達成が困難である d：すべての参考指標の推移が目標水準を下回っているなど、多くの目標値の達成が困難である</p> <p>【参考指標を設定していない場合】 目標に対する現状を分析し、a～dの最も適当な選択肢を選択し、評価理由欄を記入しています。</p>																						
2																							
3																							
4																							
5																							
6	H27年度未現在の取組の現状と課題	<p>社会福祉協議会がボランティアセンターの活動が普及化しています。（災害ボランティアセンターの具現化など）構成団体への積極的なアプローチの結果、社中高揚集会への参加者も増え、更生保護への理解も深まりつつあります。地域福祉計画の次期計画の策定については、平成27年度内は見直し直後であり、開催回数は減少しています。</p> <p>a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">参考指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">めざす方向性</th> <th colspan="2">実績値</th> <th rowspan="2">目標値(年度)</th> </tr> <tr> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域福祉推進審議会及び各分科会の開催回数</td> <td>回</td> <td>→</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>17(H29)</td> </tr> <tr> <td>社会を明るくする運動高揚集会への参加人数</td> <td>人</td> <td>↗</td> <td>349</td> <td>370</td> <td>407(H29)</td> </tr> </tbody> </table>	参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)	H26年度	H27年度	地域福祉推進審議会及び各分科会の開催回数	回	→	14	9	17(H29)	社会を明るくする運動高揚集会への参加人数	人	↗	349	370	407(H29)
参考指標	単位	めざす方向性	実績値				目標値(年度)																
			H26年度	H27年度																			
地域福祉推進審議会及び各分科会の開催回数	回	→	14	9	17(H29)																		
社会を明るくする運動高揚集会への参加人数	人	↗	349	370	407(H29)																		

(略)

6 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～5に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	施策	1-1	地域福祉を推進する
2	学識経験者	<p>外部評価として、5までの市内部の評価結果の妥当性や、施策の推進に向けて今後留意すべき点等に関する学識経験者からの意見を記載しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む中、元気な高齢者が地域福祉の担い手として一層活躍できるよう、ボランティア等の裾野を広げる取組を進め、市はサポート役にまわるなど、役割の見直しも併せた検討を進めていただきたい。 ・参考指標に関して、審議会や分科会の開催についてはアウトカム指標とはいえないのではないか。 ・行財政改革の推進についての記述は少なく、不十分である。 	
3			

3 施策評価シート

全 40 施策の施策評価シートは次ページ以降のとおりです。